



ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その70

富士山の西側の麓…メイン道路から、富士山に向かって進んだ行き止まり…霧に包まれる事が多い、不気味とも言える場所に建つ「富士ヶ嶺観音堂」…設計は奇人建築家の石山修武…2003年の作品…鉄骨の建物は「寺」であり合わせて、隣接する「墓地」もデザインされている…訪れた時にはまるで廃墟のようにも見え、出迎えてくれた住職も異世界の住人のように見えた…

CURRENTLY WORKS



木造住宅のリフォーム … 夢と驚きのある住まい 4

2階に住む子世帯のための玄関を新たに作りました。道路から続く第一のポーチから階段を上がり、広めの第二のポーチへ至ります。ここには光を透過する屋根を掛け、こどもたちの小さな遊び場としました。階段を挟む腰壁には間接照明を仕込み、ステンレス切り文字の表札を浮かび上がらせるとともに、常夜灯として、近隣の夜の安全に貢献しています。

PRIVATE TOPICS



関山の地元探訪記 その15

前々回に続き、熱田区の名古屋国際会議場近くを散歩中に巨大な樹木を発見しました。「アコウ」という木だそうです。季節になると、赤い花が咲いて、実が熟すと食用にもなるらしいです。どこかがジュマルの木に似ていますし、ジブリの世界に出て来そうにも見えます。そう考えると今にも喋り出しそうにも思えて来て、別世界へ来たようにも感じました。

EDITORIAL NOTE

5月の第二日曜日は「母の日」です。これは1870年に米国のある女性が、息子を南北戦争へ送る事を拒否するとともに、負傷兵を敵味方なく介護する「母の日宣言」をしました。その娘さんが1907年の5月12日に、母の運動を顕彰する催しとして、カーネーションを配布したことから始まったそうです。

編集担当：太田・藤原、監修：岡島